



❁「血管外漏出」について

血管外漏出とは投与中の薬剤や輸液成分が、血管外に漏出し周囲の組織に拡散することをいいます。漏れ出した薬剤により周囲組織が障害され、発赤・疼痛・腫脹などの症状が出現します。重症例では水疱、潰瘍、壊死などが形成され、外科的処置が必要となることもあります。当院では、医療安全マニュアルに血管外漏出発生時の対応が記載されています。原因は、抗癌剤が最多ですが、薬剤により症状が異なるために原因薬剤の特定が重要となります。本症のリスク要因として高齢者、栄養不良患者、使用中血管ルートの再利用、同一血管に対する穿刺のやり直し、多剤併用患者などが挙げられます。血管外漏出は早期直ちに主治医に報告をお願いいたします。



右足背から下腿：皮膚壊死部切除後



右足背：全体に熱感伴う紅斑・紫斑

第1回 医療安全研修会 開催

『輸血用血液製剤の取り扱いについて』



平成28年5月20日（金）、院内6階多目的ホールにて医療安全研修会が開催されました。富山県赤十字血液センターより塩原康司先生を講師にお招きして、「輸血用血液製剤の取り扱いについて」と題してご講演をいただきました。当日は、院外施設参加者を含め215名の参加がありました。

「輸血用血液製剤」は、関わる機会が少ない職種もある領域ですが、血液製剤の特徴や輸血時の注意点などわかりやすく説明していただきました。輸血は、善意献血者の血液であること、血液という臓器の移植であること、リスクを上回る効果があるかどうかを考慮し判断することを教えていただきました。

当院への血液製剤の供給量は多く、県内でFFP3位、RBC6位であることから、安全で効果のある輸血を行うために臨床と検査部門、赤十字血液センターとの連絡を密にしていかなければならないと感じました。



回覧																			

医療安全通信は、各部署で回覧サインし、保管をお願いします。

☆新入職者フォローアップ研修会 開催

当院では、業務にもある程度慣れ、エラーが発生しやすい3ヶ月目に毎年フォローアップ研修会が開催されています。今年度も、6月17日（金）、28名の職員が参加し、「感染教育ゲーム：SAIV!」、「危険予知トレーニング」、「N95マスクフィットチェック」の内容で開催されました。参加者からは、「グループで協力しながら研修する形がとても楽しく学べ、とても勉強になった。」「研修目標である《安全意識の向上》・《経路別感染予防対策を学ぶ》は、十分に達成できた。」との感想が寄せられました。今後も開催タイミングを逃さず、研修会がより有用なものとなるように取り組んでいきたいと思っております。



第16回 富山県公的病院医療安全研究大会 演題発表

『安全に薬剤を投与するために、ダブルチェック法の検討』



平成28年6月25日（土）、新川文化大ホールにて研究大会が開催されました。一般演題では看護師の加納千春さんが、「安全に薬剤を投与するために、ダブルチェック法の検討」と題して発表されました。平成26年度のインシデント報告で、薬剤に関する内容が全体の21%を占めることに着目し、可視化による具体的手順の指標として二人同時双方型による注射薬・内服薬のダブルチェック法の動画作成を行い、院内教育で活用していくとの内容でした。

特別講演では、「患者が医療に期待すること」と題して、NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長の山口育子先生がご講演されました。患者相談の内容が一時期多かった医療側と対立を鮮明にする相談件数が減少していることを示し、インフォームド・コンセントの患者が理解して同意するという本来の形が定着しつつある現状が報告されました。ただ、シビアな告知内容の場合は、インフォームド・コンセントを1回で済ませず、時間をおいて2回目を行い落ち着いた精神状態で治療内容などを聞けるような体制をお願いしたいと話されました。又、患者急変においても不安の中で待機しているご家族に対し一言でも声掛けを行うなど配慮をするといった姿勢をお願いしたいと話されました。先生には、人と人のコミュニケーションの良好な状態こそが、医療者と患者・家族の信頼関係の構築につながり医療相談における医療不信の減少に繋がるのでわかりやすい会話・丁寧な会話に努める大切さをお教えいただき、有意義な講演会となりました。

